

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスうらんどう広場Tomorrow		
○保護者評価実施期間	令和7年12月20日		～ 令和8年1月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	令和7年12月20日		～ 令和8年1月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもたちと向き合う姿勢、積極的なコミュニケーションを図ること。	・少人数での活動を基本として、子どもの“アクション”に対して、すぐに“リアクション”ができるように子ども一人ひとりの言動を意識して取り組んでいる。 ・子どもの気持ちをうまく引き出せるような関わり方(質問や声かけ等)を意識している。	・子どもとのより良い関わり方を習得するために、職員のSST研修など、必要なスキルを学ぶことができる機会を作っていくように検討する。
2	・事業所側が考えた活動だけでなく、子どもたちが主体となって活動を決めるなど、活動内容が固定化されないよう工夫している。	・集団で活動する際には、子ども同士で活動内容やルール決めなどを話し合う時間を作るようにしている。また、対戦型の活動の際は途中で作戦タイムを作るなど、子ども同士でのコミュニケーションを取るきっかけを作っている。 ・職員主導で進めることもあるが、中でも子どもの意思・気持ちを確認する意識を持って進めている。	・子ども主体でのイベントの開催し、企画・実行・振り返りなどの流れを体験的に学んでもらう。 ・事業所として体験させてあげたいこと、子どもがしたいこと、保護者が求めることなど、ニーズ把握に努め、より良い活動を提供できるようにする。
3	・身体を動かすことを中心とした活動の提供。	・身体を動かすことで、面と向かって話をするのとは違い、意識の分散もあり、普段会話が少ない利用者も話ができる。 ・活動では「失敗してもいい/失敗を怖がらない」意識が持てるよう、職員がサポートしている。例えば失敗しても支えてくれる職員がいる安心感が伝わるように心がけている。	・傾聴やコーチングなどのスキルを身につけられる機会を設けていき、職員のスキルアップを図る。 ・職員にも運動に対して得手不得手はあり、子どもと一緒に活動ができない(サッカーや野球など強度があるもの)場合でも極端に差が出ないよう、職員のスキルアップを図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域の他の子どもたちと交流する機会が少ないこと。	・交流をすることはとても良いことだと思うが、児童館等との連携が図れていないこと、安全面等を考慮したうえで利用者と地域の子どもたち双方が楽しめるような企画を考えるのに時間がかかってしまい、結果的に優先順位が下がってしまっている。	・まずは、他の放課後等デイサービスの行事に参加したり、当事業所のイベントに参加してもらうなど、地域に広げていく前段階としてできることを考えていく。
2	・職員のスキルアップ体制の構築。	・基本的に必要な研修の実施はできているが、その他職員のスキルアップにつながる研修の実施ができていない。	・事業所内研修の充実やオンライン研修の情報提供など、学ぶ機会を提供していく。
3			